

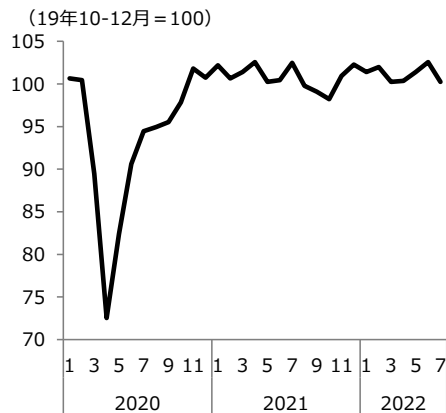
欧州

鉱工業生産（2022年7月）

生産は4カ月ぶりの減少、エネルギー供給不足がリスク

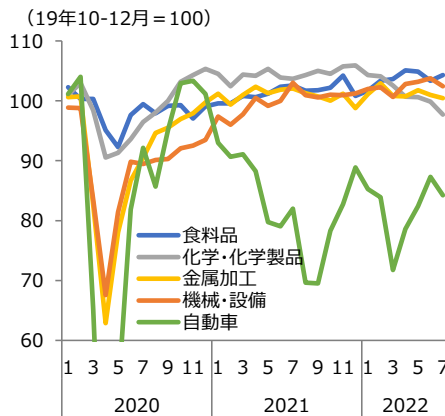
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 鉱工業生産（ユーロ圏）



出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

2 鉱工業生産（ユーロ圏、主要業種）



出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

3 エネルギー制約の生産への影響

産業	影響
鉄鋼	・ 高コストで競争力低下、一部高炉が休止
非鉄金属	・ アルミニウムと亜鉛の域内生産能力の50%が停止
肥料	・ 窒素肥料精製に必要となるガス価格高騰により生産量が70%減少
ガラス	・ 生産に必要なエネルギーの多くをロシア産ガスに依存 ・ ガラス不足となれば、自動車や電子機器生産に影響

出所：各種業界団体、報道より三菱総合研究所作成

4 緊急事態（レベル3）時の対応（独）

	概要
目的	・ 保護すべき利用者（医療機関、家計など）にガスを供給するため
対策	政府が市場に介入し以下を実施 ・ ガス火力以外で発電された電力の利用指示 ・ ガス火力の発電制限 ・ 大口消費者へのガス消費量削減指示 ・ 産業向けの供給停止指示 ・ 他国へのガス供給の制限 など

出所：ドイツ経済エネルギー省“Emergency Plan for Gas for the Federal Republic of Germany”より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 22年7月のユーロ圏の鉱工業生産は前月比▲2.3%と、ウクライナ侵攻直後の22年3月以来の減少（図表1）。
- 業種別では、化学・化学製品（前月比▲2.2%）が7カ月連続で減少したほか、自動車は4カ月ぶりに減少（同▲3.5%）。既往の供給制約に加え、ロシアや異常気象によるエネルギー供給の不安定化が生産活動に影響を与えたとみられる。
- 主要国では、自動車生産の減少からドイツ（前月比▲0.7%）が減少したほか、フランス（同▲1.5%）、スペイン（同▲1.0%）も減少した。

基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の生産は、均してみると横ばい圏内で推移している。
- 先行きは、半導体などの部品の供給制約は徐々に緩和するものの、エネルギーが生産の制約となり弱い動きが続くとみる。
- 今冬のガス貯蔵の目標（11月1日までに80%）は達成したが、ロシアからのエネルギー供給は不安定であり、熱波や干ばつの影響がエネルギー供給の不安定化に拍車をかけ、価格も高水準で推移している。
- エネルギー供給の不安定化と価格高騰は、エネルギー消費量の多い上流産業を中心に生産に影響が生じている（図表3）。各国はすでに、節ガス・省エネに取り組んでいるが、欧州委員会は加盟国にピーク時の電力消費量の5%削減を義務化する方針を表明しており、今後の生産活動に影響が生じるとみる。
- 先行きのリスクは、一段のエネルギー不足による配給制の導入だ。例えば、ドイツではガスに関する緊急計画の第3段階「緊急事態」になると、政府がガス供給に介入、医療機関や家計などへの供給を優先するために、産業向けの供給が絞られる（図表4）。配給制に移行すれば、生産の大幅な下振れは避けられないだろう。